

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年3月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677400147
法人名	医療法人社団春陽会
事業所名	グループホーム春光苑
所在地	鹿児島県肝属郡肝付町新富536-2 (電話) 0994-68-8070
自己評価作成日	令和6年2月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NP0さつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和6年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・医療機関と連携がとれているため、体調不良など迅速に対応することができる。
- ・QC活動を通して、達成感や喜び、自信を持てる暮らしの実現を目指しています。
- ・コロナ禍で面会に制限がある中、隔週近況報告、直接面会ができなくてもビデオ通話(line電話)を通して、表情など伝える機会を設けている。
- ・入居者B一人一人に応じた個別性のある、運動支援を行い、できる力の維持、向上に努めている。

事業所は県道沿いにあり周辺に病院や行政機関、文化センターや警察署等のある町の中心部に位置しており、同法人の運営する老人保健施設と隣接しているため、台風等の災害時は老人保健施設のデイルームに避難するよう取り決めているなど日頃より協力関係を築いている。

日常会話の中から本人の思いや意向を汲み取るとともに、家族からは面会時や電話、ライン等も活用して思いを汲み取り、日々の生活やケアプランに反映させている。また、主治医には照会文書により意見や助言を求めるほか、薬剤師や訪問看護師からの助言も参考にしながらカンファレンスやモニタリングを経た上でケアプランを作成している。

職員間のコミュニケーションや管理者との関係も良好であり、職員の意見や要望、提案についてを申し送り時や職員会議、休憩時間など自由に意見を出してもらうことができている。また、個人的な相談事については、LINEを活用する等、プライバシーについても配慮している。

勤務表作成時は休みの希望を出してもらい、可能な限り対応するとともに、長期休暇についても取得できるよう勤務シフトに反映させている。ケアへの集中力が持続できるよう昼の休憩は個室でゆっくり休んでもらうなど働きやすさにつなげている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝、理念を全員で唱和し、確認し合い、共有し意識づけている。（現在、コロナ禍の為状況に応じて対応している）	理念を事務所入り口にの目に付く場所に掲示しており、以前は唱和も行っていたが、コロナ禍以降は唱和は控えている。理念にある「相手の気持ちを大切に」を意識してケアが行えるよう、折に触れて理念を振り返っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて交流が図れていない。	自治会に加入しており、ホーム便りを地域に回覧してもらい事業所の取り組みを紹介している。コロナにより地域行事や学校との関りが減少したが、専門学校の生徒による職場体験を受け入れる等、感染状況を考慮しながら可能な範囲での交流を続けている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	コロナ禍にて実施できていない。 月一回のゴミ拾いに参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政や家族、スタッフと意見交換を行い、よりよい生活に繋がっている。	コロナ禍以降、運営推進会議は書面に代えていたが、令和5年度からは参集による会議を実施している。会議には家族や自治会長、行政職員等が参加し、入居者状況や行事内容、事故報告のほか、要望や助言も受けており、面会制限の緩和など出された意見や提案を運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者が、主に行政との連携を図っている。	相談事がある時や介護関係の書類を提出する際に出向くほか、訪問調査員にもホームでの様子を詳しく説明している。また、大隅地区介護事業所連絡協議会や鹿児島県グループホーム協議会に加盟して研修会に参加するなど事業所間交流や行政との連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	言葉使い等、言葉の拘束の改善を図っている。	「権利擁護（虐待防止・身体拘束廃止）委員会」を毎月法人全体で開催するほか、虐待や接遇、権利擁護に関する研修会を法人全体とホーム内において実施している。スピーチロック等については、利用者にとってわかりやすい言葉を選び、具体的に説明するなど、研修会においても繰り返し話し合いがなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、勉強会を行い、虐待のないケアを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修に参加し、勉強会の中で報告し、スタッフ間で再確認している。必要な方は、活用できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の際、重要事項の内容・リスク等の説明を行っている。本人、家族からの質問等も納得して頂けるように説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	委員会を設けて、相談・クレームなど対応し、対策を立てて実施している。家族へもアンケートを行い、意見等たずねている。	利用者の思いや意向を日常会話の中から汲み取り、申し送り時等において共有を図っている。家族からは面会にいられた際に要望を尋ねるほか、年2回家族アンケートを取り要望を汲み取っている。また、LINEも活用し、希望する家族に写真や動画を送信したり、オンライン通話にも対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや日々の業務の中で意見を聞くようにしている。また、職員同士の意見交換の場を設け、業務改善等を行っている。	職員の意見や提案は、申し送りや職員会議、休憩時間にも聞くことができしており、また相談事についてはLINEも活用するなど話しやすい関係性を築いている。勤務表作成時は、長期休暇の希望にも可能な限り叶えられるよう作成するほか、休憩時間も個室で休むことができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格取得に応じて、手当で・給与の見直しを行い、意欲を持って働けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者から代表者への報告で一人ひとりを把握できるように努めている。 毎月、勉強会を行ったり、プリント研修や外部の研修にも参加できる機会を設けスキルアップをはかれるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会を通して、交流する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族に希望を聞いて、カンファレンス等で情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時又は電話にて、家族に状況説明を行い、家族からの要望などを聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族に希望を聞いて、カンファレンスを行い、本人が出来ることやしたいことを取り入れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を尊重し、理解を深めながら、共に生活をする者同士の関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時又は近況報告にて、最近の様子を報告し、本人が生活しやすいように支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望や声掛けにて電話をかける支援を行っている。 馴染みの人会うことや馴染みの場所に行くことが、コロナ禍にて出来ていない。	入居の際に利用者や家族は基より、担当ケアマネジャーや医療機関からも情報を収集し、入居後も馴染みの関係が途切れないよう面会や電話、手紙の取り次ぎを行っている。家に帰りたい希望についても家族と協力して自宅に帰る機会を作るなど本人の思いに寄り添った支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者・スタッフが、お茶を飲む介助や見守りしながら会話をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域で会う機会がある時は、挨拶・会話をするようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプランの見直しの際、事前に本人・家族の要望を確認し、カンファレンスの際、本人を交えて話し合いを行っている。	うまく表せない本人の思いを声を掛けた時の表情から汲み取るとともに、家族の意見も参考にしながら思いの把握につなげている。また、日々の気付きについても連絡ノートに記入してカンファレンスで話し合い共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時家族から聞き取り、入居されてからは、入居者担当が中心になり、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、本人へ体調を尋ねたり、バイタル測定を行い、記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを全員で行い、介護計画を立てている。 ケアの実施内容、気づいた点は記録に残している。	本人に意向を尋ね、家族にも電話やLINE、来所時等に意向を伺いケアプランに反映させるほか、主治医には照会文書により意見をもらうなど専門職の意見や助言も参考にしながらケアプランを作成している。また、入退院等による状態の変化時や終末期など状態が変化した場合は、都度現状に即したケアプランに作り直している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、見直し時、モニタリング等の意見交換の際に活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々でカンファレンスを行い、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	努力はしているが、全て活用できているわけではない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診は月1～2回。状態に応じてその都度往診がある。必要に合わせて他科受診なども適切に行えている。	協力医療機関による訪問診療を受けている利用者が多いが、病状によっては職員が他科受診を含め、同行する等して対応している。受診の内容については、介護記録に記載して申し送り時やその都度情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問があり、状態に応じて、報告を行い指示を貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、入院前後もソーシャルワーカーを通して、入居者の情報をこまめに知ることが出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に入る際、主治医より家族に説明を行ってもらっている。 家族・スタッフ・訪問看護と共に支援している。	「重度化した場合の対応における指針」と「重度化における対応（看取り）指針の説明および内容の確認に関する同意書」を整備するほか、「事前意思確認書」も準備し、入居時に確認と同意を得ている。ターミナル研修を年間研修計画に組み込み、昨年は1名の方を家族や医療機関と連携を図りながら看取り支援を行うことができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成。すぐ確認できる位置に掲示している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は、消防署立ち会で年に1回行い、自主訓練を2ヶ月に1回行っている。 水害・地震訓練は、定期的に行っている。防災頭巾も使用している。	夜間想定を中心とした災害訓練を各棟毎に年2回、合わせて6回実施している。各居室ドアに裏に「済み」と書かれた札を掛けており、避難を終えたら裏返すよう工夫している。備蓄の食料は約3日分を備えるほか、利用者全員分の防災頭巾を備品として備えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを守り、個人の状態に合わせた、声掛けなど行っているが、ノックせずに入室、命令口調になる事がある。	接遇や個人情報保護に関する研修を行い、トイレ誘導の際は利用者の耳元で声を掛けるなど配慮している。また、個人用カルテは外部から目につかない事務所で管理するほか、ポータブルトイレを使わない時は、ドアを開けた時に見えないよう工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように働きかけているが、スタッフの都合で誘導してしまうこともある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事など、個々のペースで時間を変え召し上がっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の希望を合わせて服を選んで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆拭き・茶碗洗い・台拭きなど自ら進んで手伝い等されている。	食事は3食とも外部からの委託であるが、食事の盛り付けや食器洗い、テーブル拭き等、利用者もできることに参加している。利用者の食べたいものの希望があれば職員が購入してきたり、誕生日には担当職員と外食に出かける等、利用者の希望に合わせて支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下や咀嚼の状態に応じて、食事形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、出来る方には声掛けし、出来ない方は介助している。 年1回、検診を行っている。 (コロナ禍の為、今年度は実施できていない)		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	状態に合わせて行っている。	日中はトイレでの排泄を基本としており、夜間は職員がすぐに気付けるようセンサーを使用し、利用者が起きたタイミングでトイレ誘導を行っている。 夜間は夜用の大き目のパットを使用することで睡眠時間を確保するとともに、パットの使用削減にもつなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方は、牛乳や食物繊維の多い食事を提供している。 運動や食事でも排便ない時は、主治医に相談している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日の希望はとれていないが、入る順番や身体に合わせた入浴の支援を行っている。	週3回午前中の中入浴を基本としているが、汚染時にシャワー浴を行うなど状況に合わせて対応している。また、入浴剤を使用して楽しんだり、歩行の難しい利用者もゆっくり湯に浸かれるよう2人体制で入浴介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝、夜間など個々の希望に合わせて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解できる範囲で、尋ねられた時説明できるように心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に楽しめることやレクリエーションなど工夫して行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ドライブ等を行ったり、苑の周辺の散歩など季節感を味わっていただけるよう工夫している。 (コロナ禍でドライブの実施回数は減っている)	屋内で過ごす時間が長いと多くはストレスにつながる恐れがあるため、コロナ禍以降も少人数での花見ドライブや自宅の果樹の収穫に職員が連れて行く等、個別に希望する外出先を選定し出かけている。また、車椅子の利用者も日常的に敷地内を散歩したり、天気の良い日はお茶を楽しんだり、弁当を食べるなど工夫して取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為、外出の機会が少なく実施できていない。 外出支援を実施している。 必要なものは購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	誕生日、敬老の日など、手紙やプレゼントも家族からある。 個別で携帯を所持し、いつでも連絡が取れるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に、玄関やホールに利用者の制作した壁画を飾っている。 ソファを設置し、語らいの場をもうけている。	フロアには家で咲いた花を飾ったり、利用者と職員が一緒に作った季節の作品を掲示するなどして四季を感じてもらっている。また、屋外の花壇やプランターの花は手入れを欠かさず常に色とりどりの花を咲かせている。浴室は個室で脱衣場のエアコンにより室温を管理している。コロナ禍以降の消毒は1日3回徹底して行われており、換気等についても空気清浄機により対応している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中で本を読んだり、テレビを視聴されたり利用者同士の会話もみられる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が希望する持ち物等は持ち込み、使用している。	ベッド、エアコン、タンス、テレビが備え付けられており、寝具や化粧品、衣類など自由に持ち込んでもらうことで居心地に配慮している。また、ベッドの配置については、利用者の動線に合わせて設置することで転倒予防につなげている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、標識等工夫して設置している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない